

1/72 SCALE AIR PLANE SERIES

海上保安庁 **仕様**

YS-11

1962年8月30日、名古屋小牧空港から、純白に輝く1機の大発ターボプロップ機が澄みわたった大空へと舞い上がりました。

この機体こそ、当時の日本航空技術界の粋を結集して設計・製作された戦後初の国産旅客機、YS-11だったのです。

敗戦直後の一時期、占領軍の政策によって、航空機の製作はおろか飛行すら禁じられた時代を経たあと、次第に活況を呈した民間航空業界の発展にあわせ、国内でも国産旅客機開発の気運が大きく高まり始めていました。

このような背景から新型国産旅客機の設計・製作を行なう株式会社日本航空機製造が設立されて、ここに具体的な開発がスタートしたのです。設計チームには木村秀政、堀越二郎、土井武夫、太田稔といった戦前・戦中の名機を多数手掛けたベテランを配し、要求仕様から機体設計に至るまで綿密な検討が進められていったのです。

YS-11に要求された性能とは、当時の各国の同級旅客機よりも多くの旅客が運べ、山間地や島々が多いという日本の国情にあわせてSTOL（短距離離着陸）性が高く、1,200m級滑走路でも運航が可能であるというものでした。

このため開発当社から機体各部に新機軸が盛りこまれ、当時のターボプロップ旅客機としては最も高性能の機体として知られることにもなるのです。エンジンは定評あるロールスロイス製ダートMk.542 2基が採用され、同級の機体より広いキャビンスペースを確保、またSTOL性を高めるための長大なファウラー・フラップが主翼後縁に配されていました。

定期路線への就航は1965年4月1日からで、東亜国内航空、全日空、南西航空などの航空会社に採用されて日本各地の空港を飛び交い、多くの人々の足として親しまれました。中でも東亜国内航空では30機ものYS-11を保有しており、世界最多のYS-11フリートとしても有名です。

また海外の航空会社からも注文が殺到し、アメリカ、南米、ギリシャなどに計75機が販売されています。

YS-11には旅客64名(最大)のYS-11型と、旅客62名(最大)のYS-11A型とがあり、A型ではさらに旅客型の-200と貨客混載型の-300

とがあります。なお、-200型では胴体左側前方に、-300型では左側後方に旅客出入口があるので違いがすぐにわかります。

一方、民間航空会社の他に運輸省、海上保安庁などの官公庁でも採用されましたが、何と言っても多数のYS-11を使用しているのは航空および海上自衛隊です。

航空自衛隊では人員輸送型のP型4機、人員/貨物輸送型のPC型1機、貨物専用型のC型が7機、それに飛行点検用改装型1機、計13機が採用されています。各部の機装や内装に変更が見られますが、旅客機が母体のためキャビン内の騒音が静かなのでパイロットからの人気は上々です。最近ではC型の内2機が電子機器を搭載したECM（電子妨害戦）専用機型のE型に改装されて使われています。

海上自衛隊では人員/貨物輸送型のM、M-A型を4機、機上作業訓練型のT-A型6機の計10機が採用されました。この内T-A型はP-2J、PS-1の対潜機材の乗員訓練を担当するため胴体下面にレドームが装着されており、民間型とはイメージに大きな変化が見られます。

航空および海上自衛隊で使用中の23機のYS-11各型は大きなトラブルもなく、現在までに1機の損失機がないのは本機の優秀性を物語るものとして特筆に値するものです。

各型合計182機（試作型を含む）が生産されたYS-11は、初飛行以来すでに4半世紀が過ぎ、ジェット化の波によって現在ではローカル路線で運航されているに過ぎませんが、戦後初の国産旅客機としての意義、そしてYS-11の開発・製作の中で培われた航空技術の数々がその後の航空業界に大きく貢献していることは忘れられることはないでしょう。

機体要目 全幅：32.0m 全長：26.29m 全高：8.99m 最大離陸重量：24,500kg エンジン：R.R.ダートMk.542-10系(2,680shp)2基 最大時速：552km/h 実用上昇限度：6,096m 航続距離：980km 離陸滑走路長：1,113m 着陸滑走路長1,097m

**BAN
DAI**

組み立てる時の注意です。



- 組み立てる前に一度説明図をよく読みましょう。
- 部品は、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。部品にバリ（余分な部分）があったら、ヤスリなどできれいにけずりましょう。
- 部品の塗装は組み立てる前にすれば仕上がりがきれいです。塗装図を参考にしてください。

- 部品は、接着する前に仮組みをして位置を確かめてください。
- 細かい部品はピンセットを使って組み立ててください。

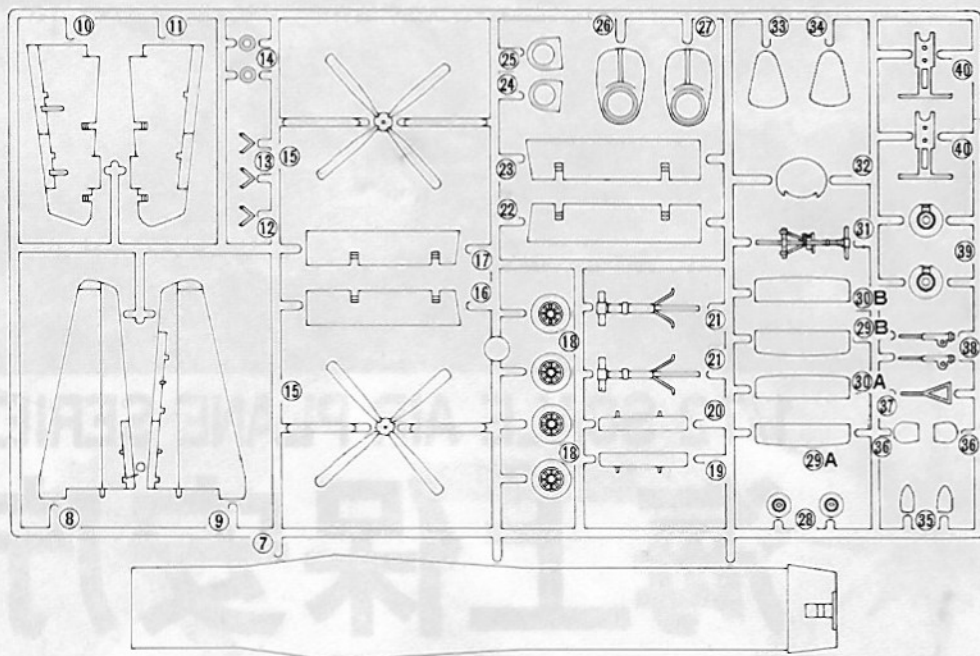
〈お客様へ〉

部品の中には、やむをえずとがった部分がありますが、ケガをしないように注意して組み立ててください。

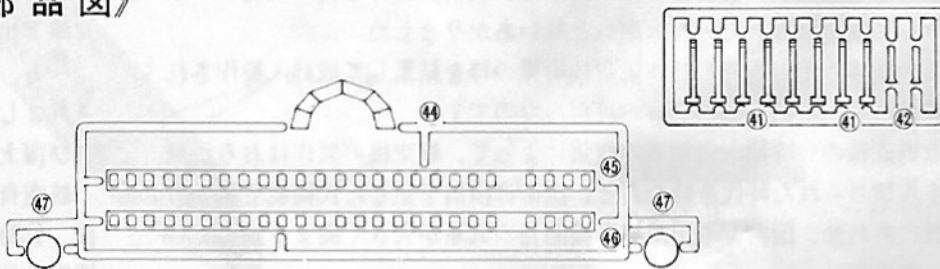
※特にとがっている部分には ← 注意 記号がついています。

- 接着剤を使用する時は、火気に注意し、換気をよくして正しく使いましょう。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」をおすすめします。

このキットには、接着剤は入っておりません。お手数ですがプラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。



〈部品図〉



〈その他の部品〉

- オモリ… 1
- デカール… 1

〈お客様へ〉

部品をこわしたり、なくしてしまった人に限り部品をおわけております。部品の注文は、下の部品注文カードにほしい部品名、部品番号、数量などはっきりと書いて封筒に入れ、80円切手を貼り、当社お客様相談センターまでお申し込み下さい。実費（部品代+送料）にておわけします。お客様の住所・お名前・郵便番号は正しく、わかりやすくお書き下さい。なお、万一部品に不良・不足がございましたら、部品注文カードに〔不良〕〔不足〕とご記入の上、部品を請求して下さい。不良品は、当方へお送り下さい。送料は当社負担の上、良品と交換いたします。※組み立て途中のキットの返品・とりかえはできませんのでご了承下さい。

〒424 静岡県清水市西久保305

株式会社バンダイ静岡工場お客様相談センター・部品係

TEL 0543-65-5315

1/72 YS-11 海上保安庁・海上自衛隊

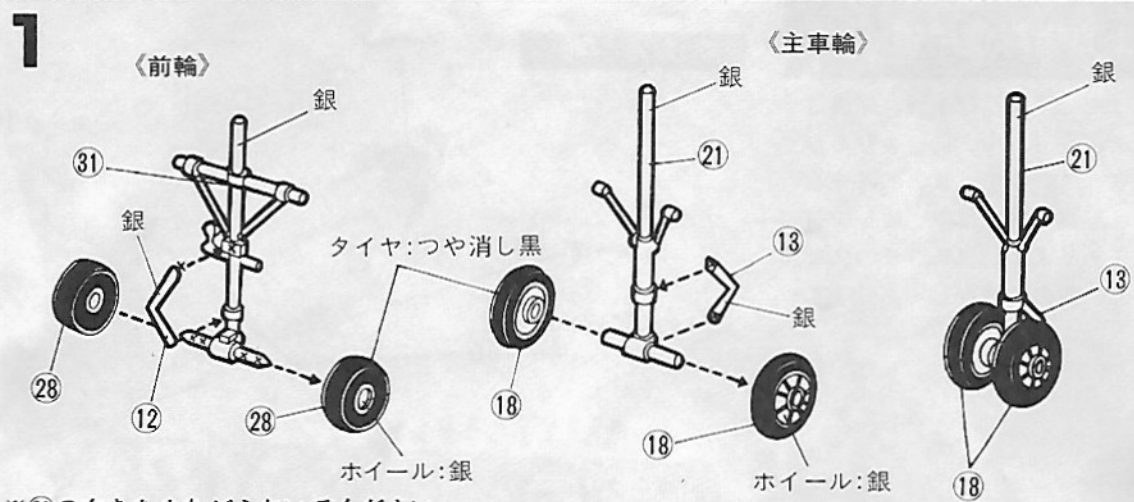
部品注文カード

ほしい部品番号・数量を書きます。

注文理由 ()

1 《車輪の組み立て》

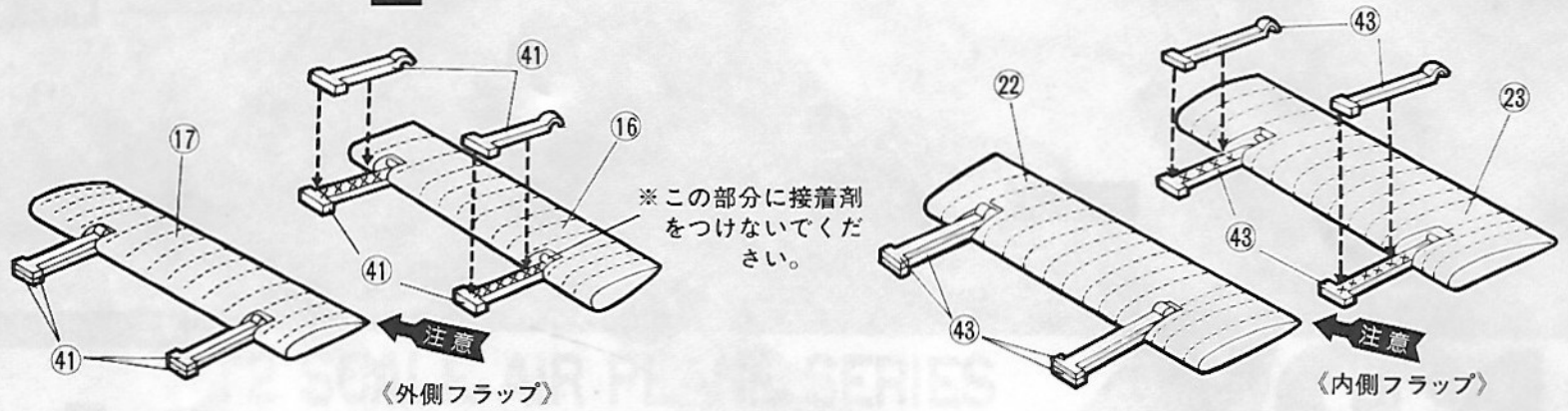
- 前輪と主車輪を図のように組み立てます。



※31の向きをまちがえないでください。

2 《フラップの組み立て》

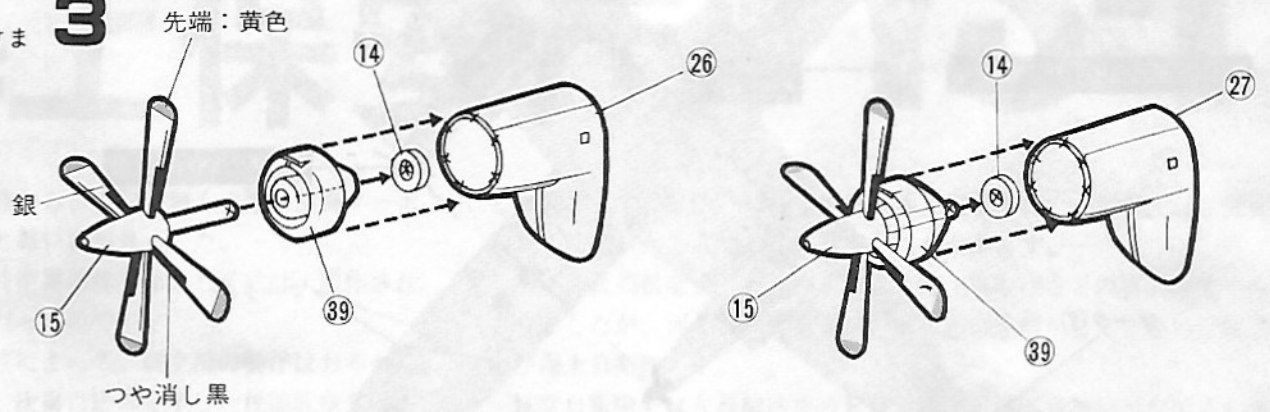
2



3 《カウリングの組み立て》

- プロペラは回転するように取り付けます。

3

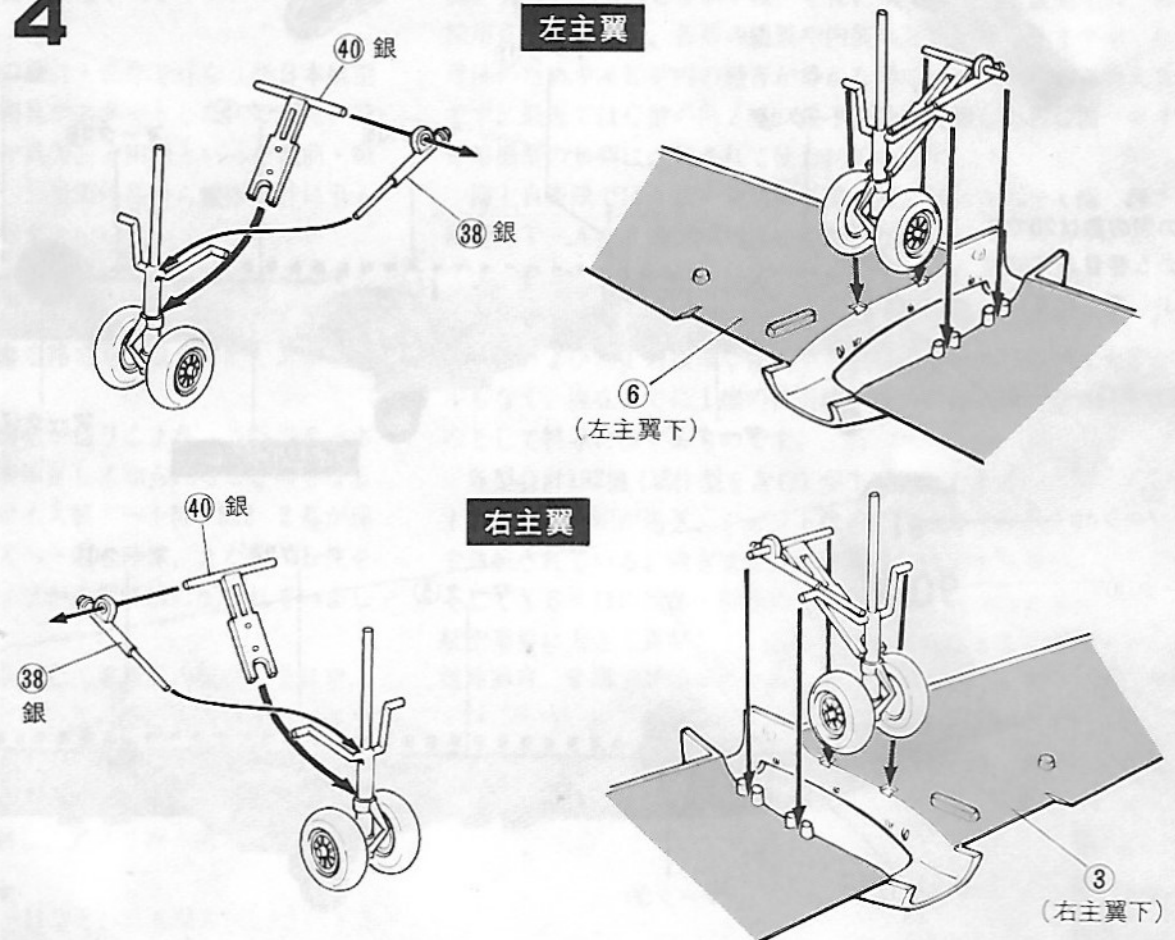


4 《主車輪の取り付け》

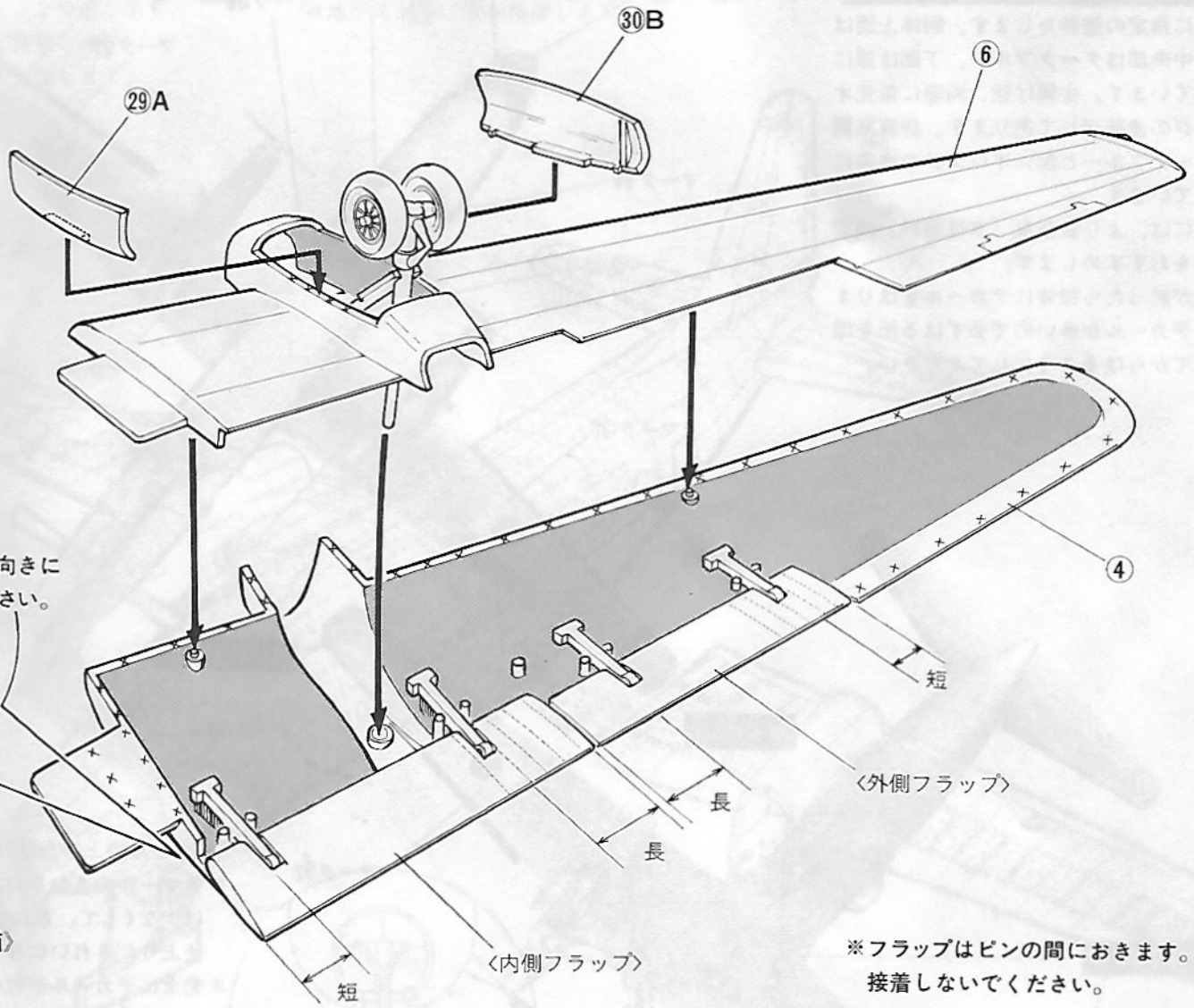
- 主車輪に38 40を接着します。
- そして、組み立てた主車輪をそれぞれ主翼下のミゾにあわせて、しっかりと接着します。

※接着剤が乾くまで、さわらないでください。

4



左主翼

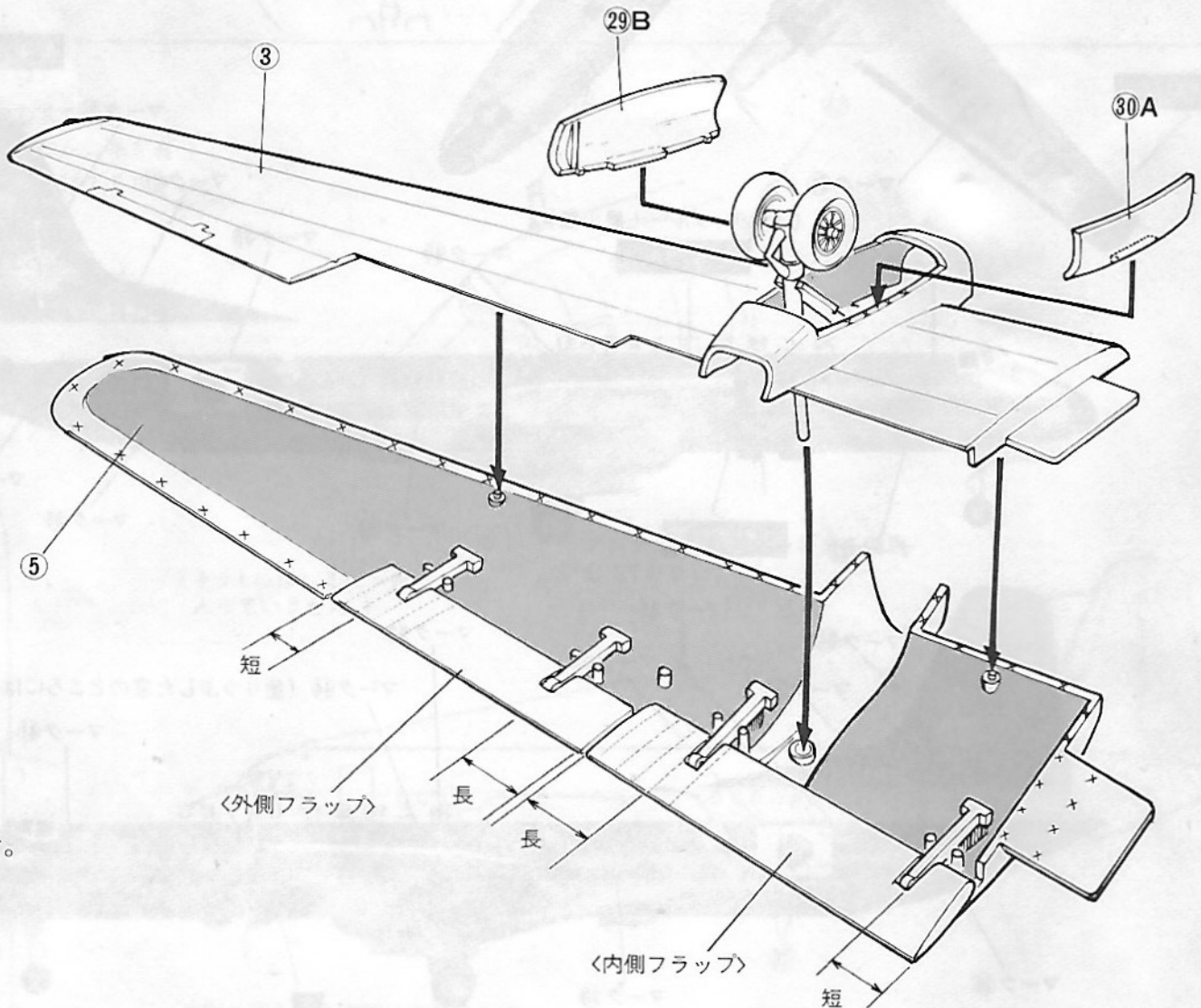


《フラップの断面》

※フラップはピンの間におきます。
接着しないでください。

※フラップはこの向きにおいて
ください。

右主翼



※同じように組み立てます。

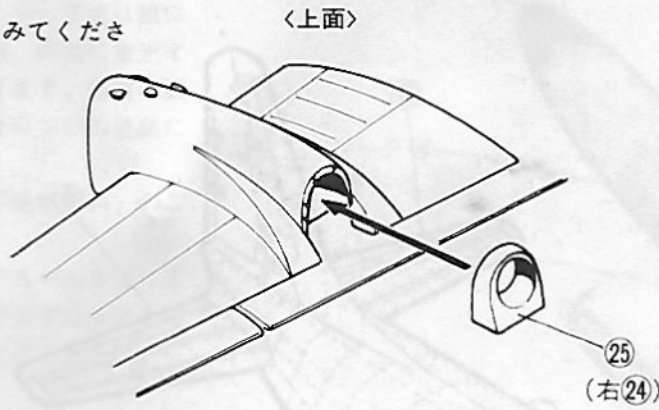
6 《小部品の取り付け》

6

左主翼の場合

- 左、右主翼の上面と下面に右の部品を接着します。

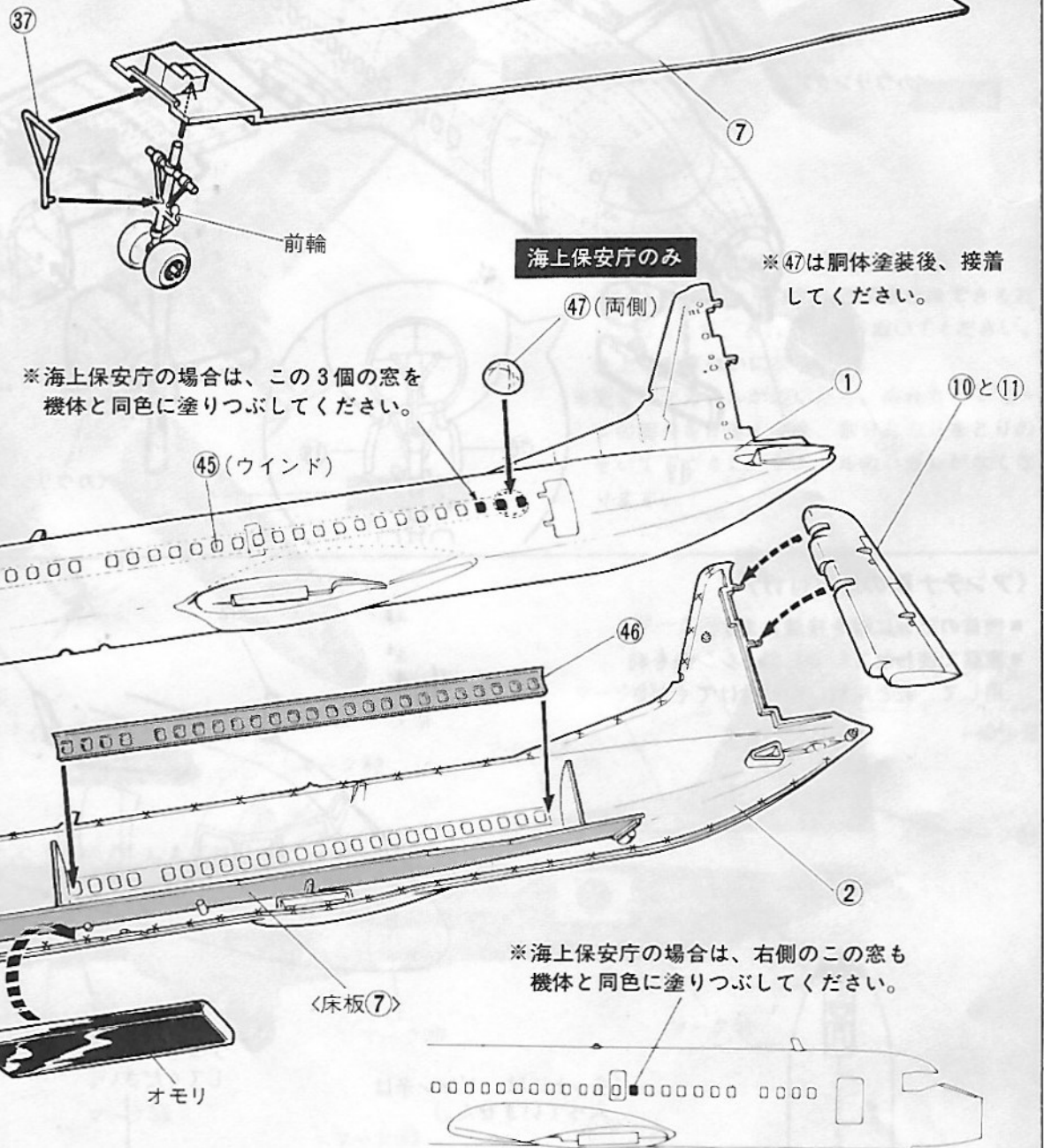
※③③と③④の接着は、注の図をみてください。



7 《胴体の組み立て》

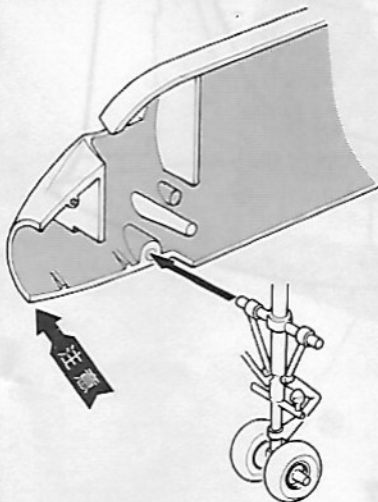
7

- 前輪、③⑦を⑦に接着します。
- 胴体①と②にウインド④⑤と④⑥を接着します。
- ラダー⑩と⑪を接着します。
- 床板⑦、ラダー、オモリを図のようにはめ、胴体①と②をしっかりと接着します。

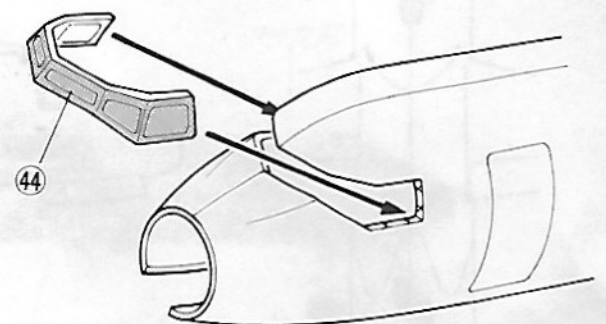
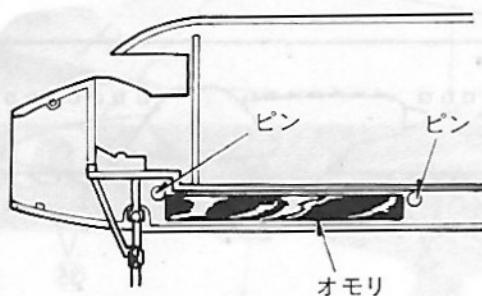


※胴体は接着後、ゴムバンドなどでしっかりと押えておいてください。

《前輪と胴体の取り付け位置》



《オモリの位置》



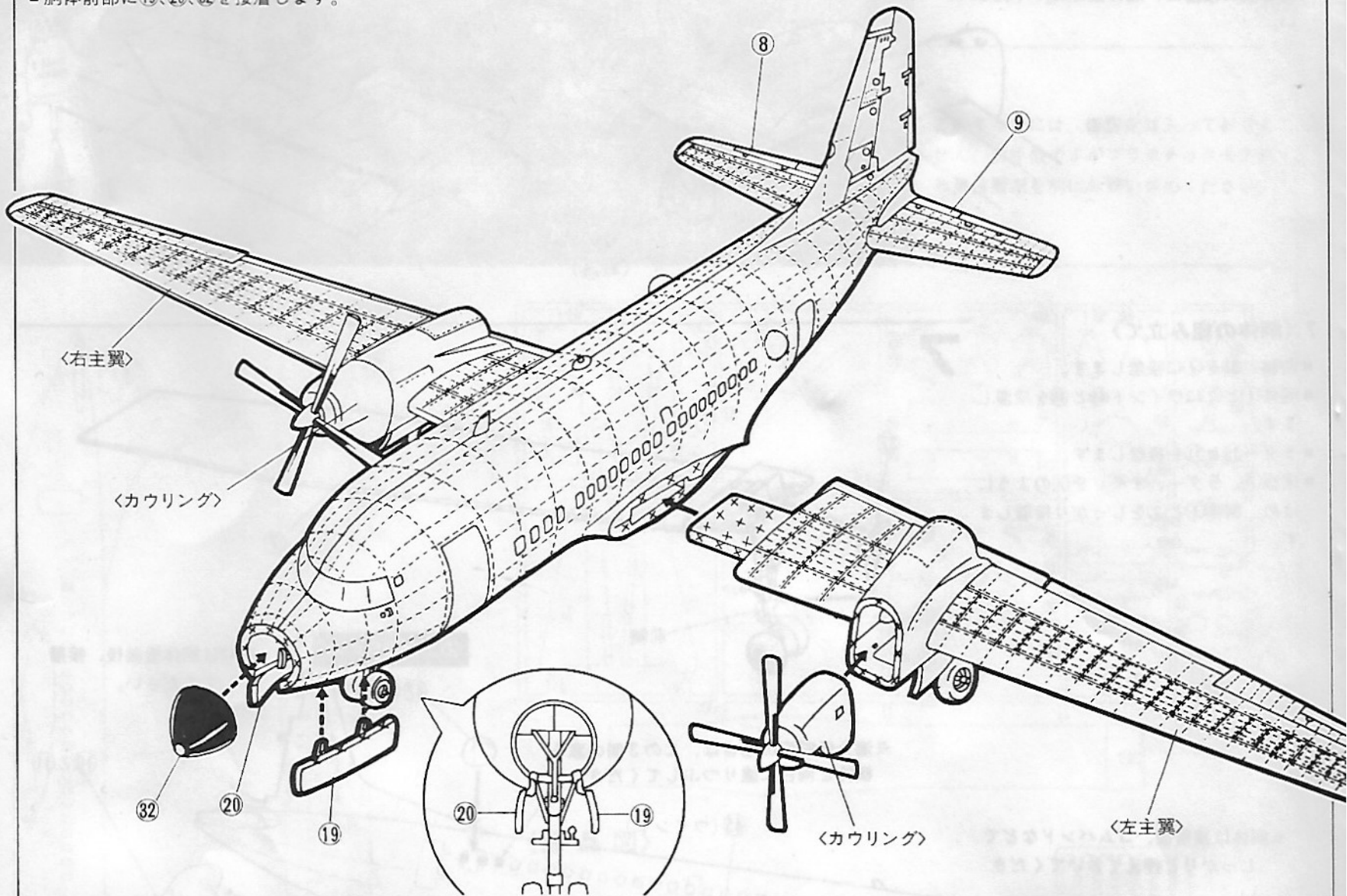
●④④を接着します。

8 《主翼の取り付け》

8

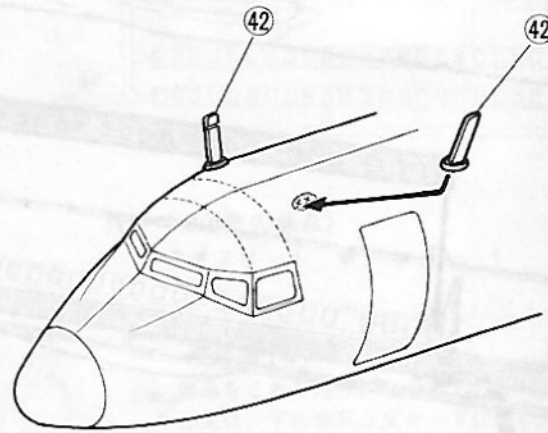
- 左右の主翼にカウリングを接着します。そして、主翼を胴体に接着します。
- 胴体前部に⑬、⑭、⑳を接着します。

- 水平尾翼⑧、⑨を接着します。



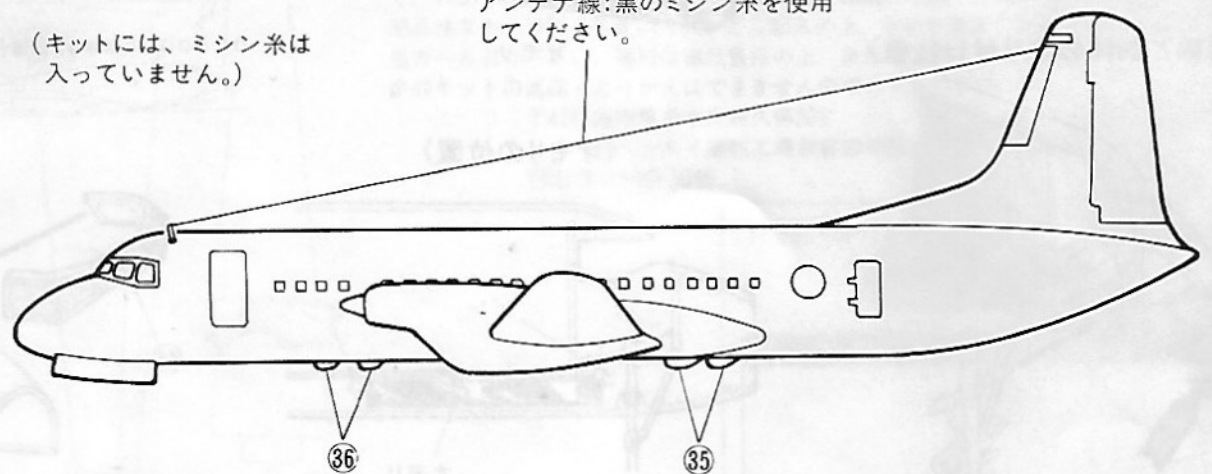
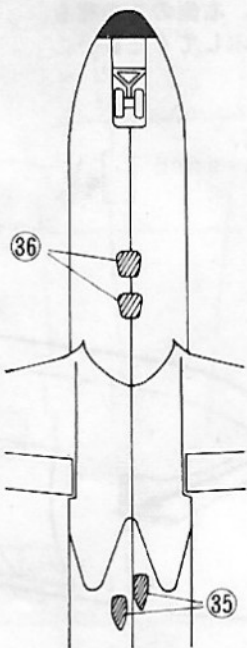
《アンテナ線の取り付け》

- 機首の部分に④②を接着します。
- 家庭で使われている黒のミシン糸を利用して、④②と尾翼に取り付けてください。



アンテナ線: 黒のミシン糸を使用してください。

(キットには、ミシン糸は入っていません。)



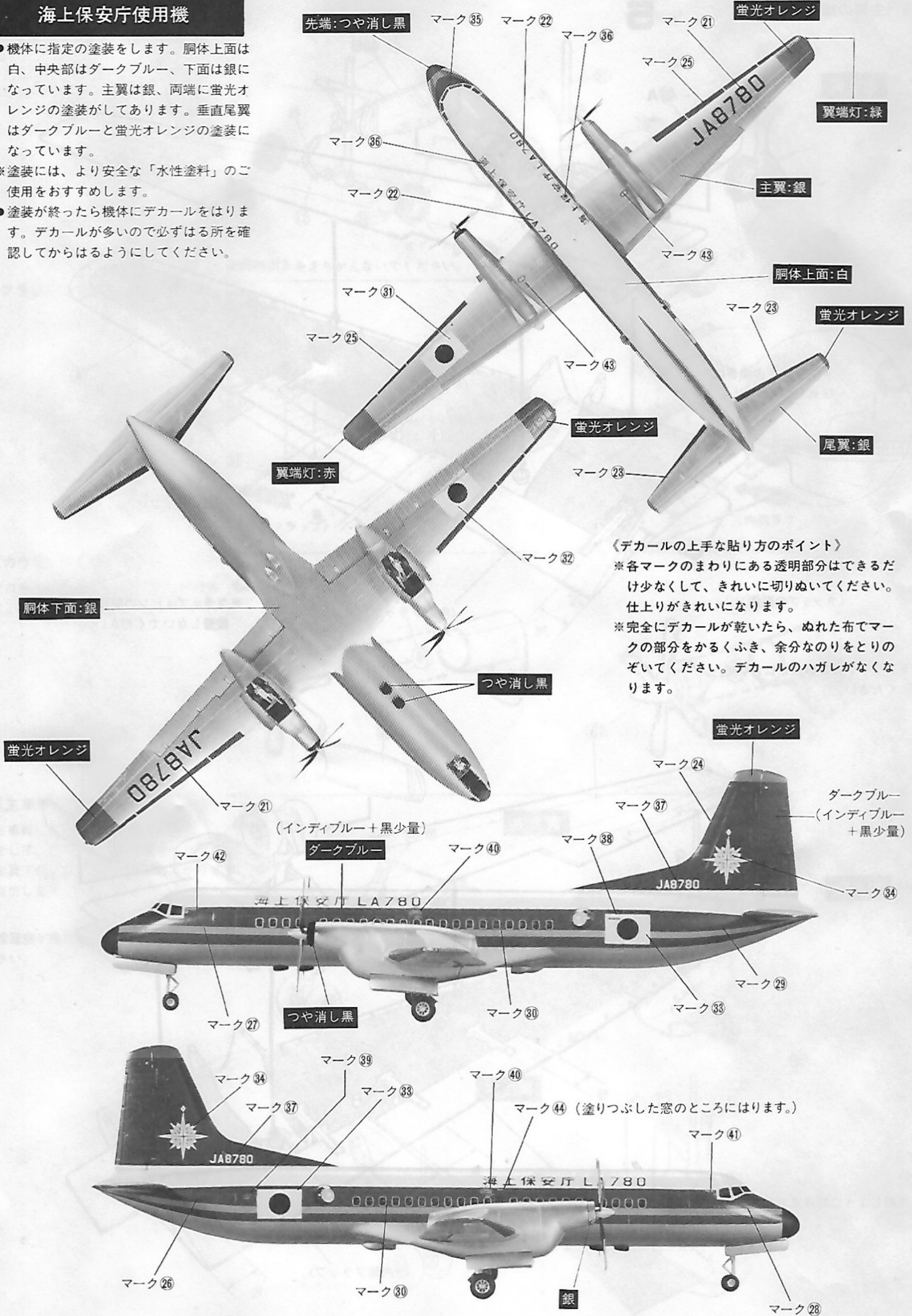
- ㉔と㉕を胴体下面に接着します。

海上保安庁使用機

●機体に指定の塗装をします。胴体上面は白、中央部はダークブルー、下面是銀になっています。主翼は銀、両端に蛍光オレンジの塗装がしてあります。垂直尾翼はダークブルーと蛍光オレンジの塗装になっています。

※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

●塗装が終わったら機体にデカールをはります。デカールが多いので必ずはる所を確認してからはるようにしてください。

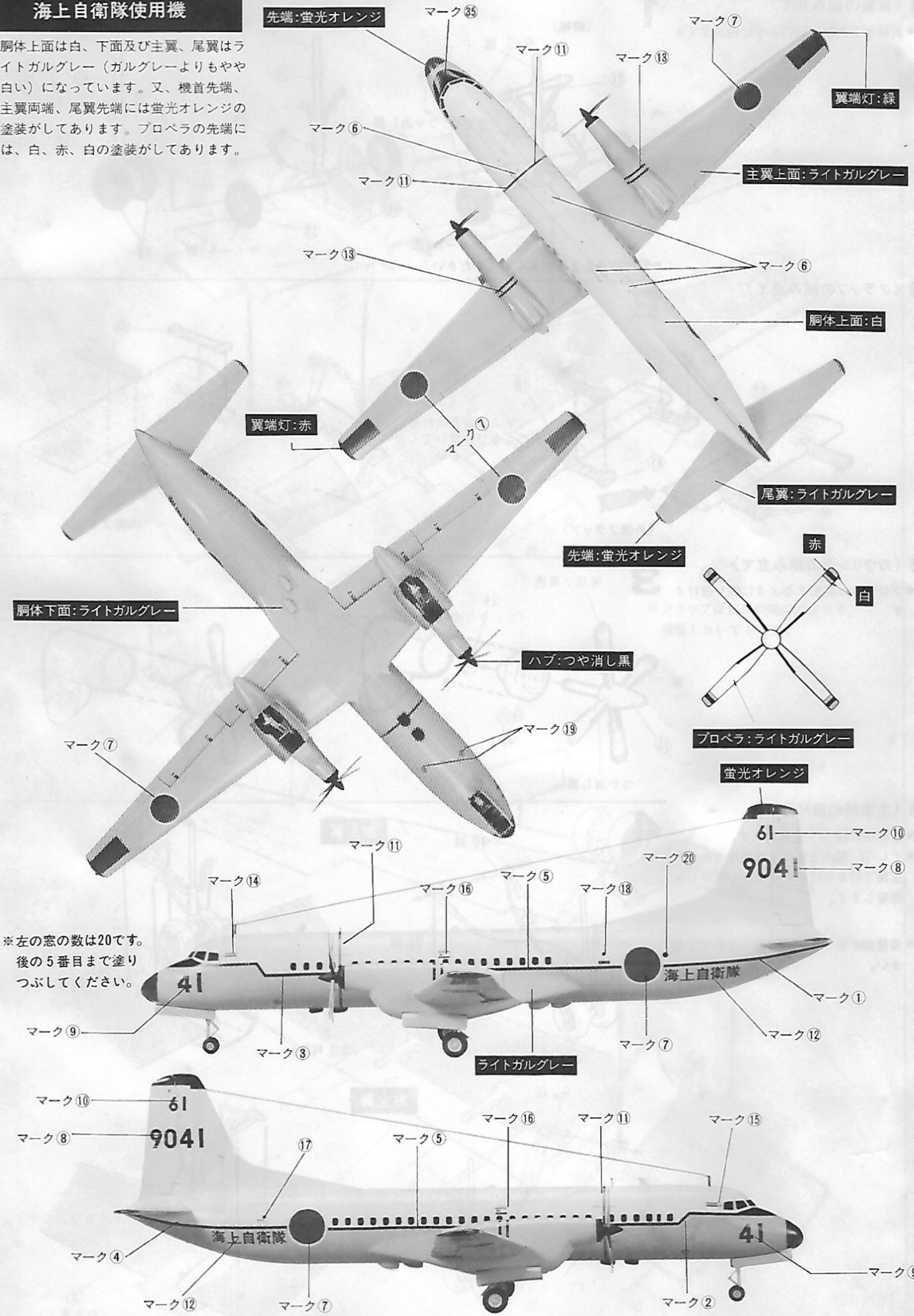


《デカールの上手な貼り方のポイント》
 ※各マークのまわりにある透明部分はできるだけ少なくして、きれいに切りぬいてください。仕上がりきれいになります。
 ※完全にデカールが乾いたら、ぬれた布でマークの部分をかきふき、余分のりをとりのぞいてください。デカールのハガレがなくなります。

マーク44 (塗りつぶした窓のところに貼ります。)

海上自衛隊使用機

● 胴体上面は白、下面及び主翼、尾翼はライトガルグレー（ガルグレーよりもやや白い）になっています。又、機首先端、主翼両端、尾翼先端には蛍光オレンジの塗装がしてあります。プロペラの先端には、白、赤、白の塗装がしてあります。



※ 左の窓の数は20です。後の5番目まで塗りつぶしてください。